

此之内貳百卅	上役なし
殘六百卅	上役有分
金文宮年中御神事成申分	
百 卅	正月朔日
三十 卅	同 二日
卅 卅	同 三日
二十 卅	同 四日
二十 卅	同 五日
二十 卅	同 七日
二十 卅	同 十五日
卅 卅	二月御歸遊
卅 卅	御遊行御祭
二十 卅	三月三日
五十 卅	四月祭禮
二十 卅	五月五日
卅 卅	七月十五日

五十 卅 八月放生會
 二十 卅 九月九日
 卅 卅 九月御遊行御祭
 二十 卅 霜月御歸遊
 二十 卅 十二月大晦會
 已上 五百五十 卅
 殘八十 卅

(第二通の文書は年次を詳かにせずといへども、高藏二季御遊行とあるが故に、高座宮にも亦二月の御遊行御祭ありたるなるべし。第一通に之を脱せり。)

九月。溫井俊宗、鳳至郡別所谷八幡宮に、田地を寄進す。

【別所谷八幡宮掲札】 鳳至郡 一〇八二 (表)

右意趣者天下泰平國土
 豐饒富貴繁昌、別者當社
 安穩且那快樂息災延命故也

(裏)

領主 藤原朝臣俊宗
 神主 越前正盛

于時明應貳天九月日

八幡且那寄進之
 大夫越前相渡申候
 右如件

□合貳百卅此内百卅
 □三月御神事

(本文はもと棟札とすれども寄進札なるが如し。)

十二月廿九日。幕府、西郡四郎に、攝津政親所領河北郡倉月莊内の地を押妨するを停め、之を政親代に交付せしむ。

【美吉文書】 武藏 一〇八三

攝津掃部頭政親申、加賀國倉月庄内南新保西方事、押領之間、度々御成敗之處、違亂未休云々、太不可然。早停止其妨、可被去渡下地於政親代、更不可有遲怠、由被仰

出候也。仍執達如件。

明應二 十二月廿九日
 種(儀尾) 貞 在判
 種(謙助) 通 在判

西郡四郎殿

(文明八年十一月四日の條参照。)

明應五年 丙辰 紀元二一五六

四月七日。幕府奉行人等、朝日貞長・同近江三郎と中院通世との江沼郡額田莊及び加納八田莊地頭職の訴訟を勘進す。

【中院文書】 一〇八四

朝日孫左衛門尉貞長・同名近江三郎与中院家雜掌相論加賀國額田庄并八田庄地頭事

如兩人申狀者、先年近江守教貞・孫左衛門尉時基、令未進公用之段被訴申之、始而被申給直務御下知畢。於此方者、代々帶公私之證券、知行之處、一旦號有少未進、忽被召放普代本領之條不便之至也云々。如中院家雜掌支